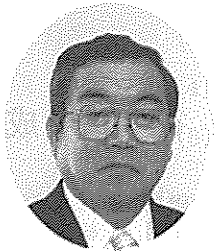


学校風景



同窓会の参加

同窓会長 伊東尚志

立秋を過ぎても秋の兆しはほど遠く相変わらずの暑さが続いていますが、同窓会員の皆様にはますますご健勝にて各界でご活躍のこととご拝察いたします。

さて、ここ1年を振り返って見ますと、耐震強度偽装事件、ライブドア・村上ファンド事件など急激に変化する時代を象徴したような個人主義、拝金主義的な事象が多々発生し、ただただ呆れるばかりであります。

昨今は、遅ればせながら少子化の議論も活発化してきておりますが、母校上市高校でも時代の大きな流れの中で、生徒数が減少しており、時折見かけます生徒の登下校姿を垣間見るとき、懐かしく思うとともに、一抹の寂しさが心を過ぎるのは私だけではないと思います。

また、志願者数の偏りなども地域社会の活力低下に結びついているようにも思われます。

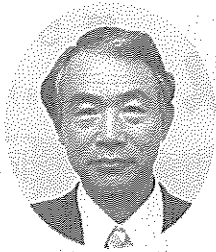
しかし、会長を仰せつかって3年目となりますが、お

陰様で、同窓会活動は少しずつではありますが活性化してきているように思います。定期総会の出席者も若干増加し、年度別集いも恩師などを迎え、和やかに行われるそうです。

卒業後、機会があれば母校を訪ねたいと思いつつ、今日になっている方も多数いらっしゃると思いますが、「同窓会」を通じて、久しぶりに会う旧友はまた格別です。ぜひ一度、同窓会に参加してみてください。

最近、勤勉な県民性が企業誘致に弾みを付けていることが話題になっていましたが、創校以来の「勤労、自治、向上」の建学の精神そのものであり、在校生に脈々と引き継がれるよう念じております。

終わりに、3年後には90年を迎える母校と共に名実ともに歴史と伝統のある学校の卒業生として、限りないご活躍を祈念してご挨拶いたします。



ご挨拶

校長 加藤 憲夫

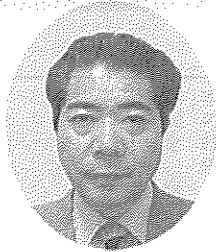
会員の皆様には、益々ご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育の充実と発展に多大なご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

私はこの4月に本校に着任いたしました。剣岳の眺めのすばらしさ、前庭、中庭など広々とした敷地から生まれる開放感、そして何といても200mも続く桜並木など、環境に恵まれた伝統ある学校に勤務できる幸せを日々感じています。

さて、6月末、本校同窓会の滑川支部総会が盛大に開催され、来賓として出席された伊東尚志同窓会長や、各界でご活躍の会員の皆様と親しく話をする機会を得ました。会員の皆様からは本校生徒として過ごされた当時の思い出や、本校への要望、今の高校生に関する思いなどたくさんの貴重な話を聞かせていただきました。経営者の立場で高卒就職者に接して来られた方からは、「今の高卒就職者は体は大人でも精神面は子供のままとという者が多く、話し方、受け答えが幼稚で、挨拶もきちんとしてできないなど、大人としての振る舞いが身につけていない。高校でも働くことの意義や子供から大人への切り替えを

きちんと教育してほしい。」という話を伺いました。

近年、社会全般的な傾向として、幼稚で自己中心的、規範意識が薄く、目標を持って自立しようという意志に欠ける若者の増加が問題になっていることは誰もが知るところでありましょう。高校教育においても、学力の向上とともに、社会性を高め職業観・勤労観を育成し、主体的な進路選択を可能にするための「キャリア教育」の重要性が指摘されるようになりました。本校は平成9年に「総合学科」を設置し、今年で10年の節目を迎えています。文部科学省は総合学科を高校改革の要の一つと捉えており、総合学科制をとる本校の目指すところは時代の要請にまさしく合致しているものと考え、鋭意努力しています。現2年生においても、生徒の進路実現をさらに推進する「コアカリキュラム」の導入を図り、指導内容の充実と努めているところです。これからも、会員の皆様、保護者や地域の皆様方のご協力の下、教職員一丸となって生徒の知徳体全ての面での成長を目指していきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。



回想

副校長 鍋谷 正成

本校は、大正9年4月8日、中新川郡立富山県中新農業学校として産声を上げて以来、学制改革にとまなう統合や課程の増設・改称、募集停止など幾多の変遷を経て、平成9年には県内2校目の総合学科が設置され、今日に至っております。

今年の3月には総合学科七期生を送り出し、会員総数は21,000有余名に上り、それぞれの皆さまが各界で活躍されていることは、誠に同慶の至りであります。

さて、私には幼少より母に手を引かれ、よく夕涼みの折りに本校へ七面鳥や家鴨、馬など見に訪れた記憶があります。そうした思い出が、心の中に強く残っていたこともあったので、昭和39年、この慣れ親しんだ学校に、私は迷うことなく入学しました。

そして、昭和46年、社会人となってはじめて着任したのも上市高校であったのは、何とも感慨深いものがあります。それからの教員生活の中では、途中7年間他校での勤務もありましたが、昭和57年から今日に至る24年間の長きに渡り、母校で勤めさせていただけることに、深く感謝いたしております。

さて、本校の同窓会の歴代会長さんの成し遂げてこられた足跡を見ますと、初代山本宗問氏は、昭和24年8月

から31年間、今日の同窓会の礎を築かれ、第二代池田嘉重氏は、昭和55年8月から4年間、伝統の上に新風を吹き込まれました。第三代藤原平蔵氏は、昭和59年8月から8年間、創立70年の大事業や70年史の発刊などを成し遂げられました。第四代柳瀬菊太郎（元校長）氏は、平成4年8月から4年間、よき伝統の継承と支部活動の強化に力を尽くされ、第五代中川喜久夫氏には、平成8年8月から2年間、母校愛を持って、献身的に運営にあたられました。続く第六代中川久尚氏は、平成10年8月から6年間、桜並木の補植などと創立80年の大事業を積極的にすすめられました。

そして、第七代伊東尚志会長（平成12年8月から4年間会長代行）には、平成16年8月に就任後、次々と新しいアイデアを考案され、卒業後十年ごとの節目に皆で集うことを働きかけられたり、各役員会・総会への参加を強く呼びかけられるなど、本会にかけられる情熱をひしひしと感じております。

それぞれの時代に、会長さんの時代があって、今日の本会があることを思うにつけても、歴史の流れは厳粛なものであると同時に、哀愁をおびた懐かしいものとして、私の心に映ってきます。